

令和5年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	21	学校名	静岡県立沼津工業高等学校 (定時制)	校長名	望月 保宏
------	----	-----	-----------------------	-----	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安心安全な学校づくりの推進	交通安全に気を付けていると答える生徒80%以上 重大な交通事故件数ゼロ	交通安全に気を付けていると答えた生徒89%。 重大な交通事故件数ゼロ	A	成果目標は全て達成しているが、交通に関する軽微な事故が3件報告されている。交通マナーも含めて自分の命を守ることの大切さを今後も訴え続けていきたい。 交通事故は 自転車 単独・転倒 自転車 車両と接触 自動車 シカに接触
		防災意識を高め安全について自主的に考え行動できる生徒が80%以上	災害時に命を守るためにどのような行動をすればよいかを理解していると答えた生徒89%。	A	防災訓練では例年の態様に加え防災講話を実施した。次年度は消防署や県の該当部署と連携した取り組みを実施、防災意識の更なる高揚に努めていきたい。
		工業実習での重大な事故件数ゼロ	実習教科を含む工業に関する授業内で、生徒の事故が発生しなかった。	A	現在、重大事故ゼロを継続中である。今後も気を抜くことなく、継続できるよう取り組んでいく。危険予知や実習服の正しい着こなし等、生徒が主体的に行動するように指導する。
イ	規範意識や人権意識等の醸成	信頼できる先生がいると答える生徒が80%以上	信頼できる先生がいると答える生徒が79%	B	今年度は、特別な支援を必要とする生徒や問題行動など、該当する生徒への指導ケア、職員数減など生徒達との関わりが希薄になりがちだった。さらに情報共有と協働する意識を高める。

		<p>本校に入学して良かったと答える生徒が80%以上</p> <p>学校生活に満足していると答える生徒が80%以上</p> <p>学校が楽しいと答える生徒が80%以上</p> <p>挨拶ができる生徒100%</p>	<p>本校に入学して良かったと答える生徒が78%</p> <p>学校生活に満足していると答える生徒が79%</p> <p>学校が楽しいと答える生徒が76%</p> <p>挨拶ができる生徒84%</p>	B	<p>目標に概ね近い状況ではあるが、学校生活に満足できていない生徒、楽しいと思えない生徒も少数存在する。日頃からの声掛け、面談等を通して生徒の実態を把握し、教員間の情報共有を行い、生徒へのサポートを丁寧に行っていきたい。</p> <p>また、目標を持ち主体的に学校生活を送っている生徒は少ないように見受けられる。そのため、生徒一人ひとりが学校生活における目標を見つけられるように働きかけをしていく必要がある。</p> <p>各教員の声掛け等により、集団行動に対する意識の高まりは見られたが、より一人ひとりの規範意識を高めていく必要がある。</p>
		<p>生徒全員が卒業、進級を目指す。</p>	<p>クラス担任や教科担当者間で生徒情報を共有し、生徒の実態に即して対応することができた。</p>	B	<p>欠課時数が多い生徒が複数存在している。担任を中心に教科担当者と情報を共有して指導に当たっているが、改善が見られない生徒もいる。生徒が自発的・主体的に自らを発達させていくことを促し、資質・能力の発達を支えるように働きかけ、生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、授業、行事等を通じた個と集団への働きかけを大切にす。</p>
ウ	基本的な生活習慣の確立	<p>時と場に応じた行動をとるよう気をつけていると答える生徒が80%以上</p>	<p>時と場に応じた行動をとるよう気をつけていると答える生徒が81%</p>	A	<p>目標は達成できているが、自分勝手な行動をとってしまう生徒も少なからずいる。HRだけではなく授業や部活動を通じた道徳教育等を実践していく必要がある。</p>
		<p>新体力テスト優秀校 (9年連続を目指す)</p>	<p>男子7年連続「最優秀校」、9年連続優秀校以上。</p>	A	<p>今後も継続して、運動量の確保と弱点種目の更なる強化に取り組む必要がある。</p>

様式第3号

エ	学習内容の定着により進路希望の実現	多様な生徒に対する指導法を研究・実践する教職員 100%	多様な生徒に対しての指導方法を考え実践した教職員 100%	A	発達障害とその他障害を有する生徒に関しては専門家の意見を聞いた上で個別の配慮を行う必要がある。全職員で共有し指導体制を確立する必要がある。
		ICTを効果的に活用して「理解が進む」「楽しい」「活力のある」授業を実践する教職員 100%	ICT機器を使用して授業・評価を行った教職員 100% 生徒の授業の満足度 76.3%→79.4% 生徒の授業の理解度 81.6%→88.2%	B	今後も ICT 機器の効果的な活用方法について共有していく。 ICT を使うことが目的にならないようにする。 生徒の授業の満足度が 73.9% (R4) から 79.4% (R5) へと向上した。 生徒の授業の理解度が 79.5% (R4) から 88.2% (R5) へ向上した。 授業改善の意識を更に高めて「わかる授業」を実践し、生徒の授業への意欲・関心を高める必要がある。
		外部人材の活用（3回以上）	外部人材の活用は目標達成。	B	キャリア教育に関連して3回の外部人材活用を実践することができた。（4年を除く学年は2回）学校行事での外部人材活用は難しいため、次年度は多くの地元企業に声を掛けてミニガイダンスを複数回実施する。生徒が自身の実態に見合う企業を知ること、おのずと進路意識が向上し、インターンシップや職場見学等、進路実現に向けて動き出すことができると考える。
		3年次終了までに進路が明確になっている生徒 80%以上 進路決定率 100%	3年次までの進路が明確になっている生徒は達成。 進路決定率は12月時点で 73%	B	就職・進学の見込みは例年通りであったが、就職活動の停滞が現在まで続いている生徒もいる。原因は働く覚悟やクラスメイトの雰囲気の影響していると感じる。早期にインターンシップを体験していた生徒は一次募集で決定しているため、下学年から積極的なインターンシップの紹介、アルバイトの斡旋、地元企業と生徒のミニガイダンスを実施して少しでも就業意識を持たせる。また、校外行事として全員参加型の工場見学を実施する。

様式第3号

オ	地域社会に根ざした産業教育の推進	生徒研究発表会、作品展示会を実施し、保護者や地域の方々に開放する。	東部地区合同文化祭の準備を着実に進め、展示部門をはじめ、今年度はステージ部門への参加を果たした。	C	今年度は、課題研究の設定が無いため、研究発表の場がないが、授業公開日に作品展示を実施した。 東部地区合同文化祭は担当校でもあり、例年より職員の負担がかなり多かった。実習での製作物の展示、ステージ発表など生徒の活動を発表することができた。
		生活体験発表会へ全生徒が参加し、代表生徒は東部地区以上で入賞を目指す。	東部大会1名出場。	B	夏休みを利用して出場する生徒に対しての書き方指導と話し方指導を実施した。 全校生徒に対しての作文の書き方を教授していく。
		生徒会主催による地域と連携したボランティア事業へ参加する生徒が100%	地域と連携した事業や学習発表・実践の場への参加回数が4回以上と答えた生徒26%。	C	目標を大きく下回った結果となった。沼津市の地域防災訓練が津波注意報によって中止となってしまったことも要因の一つとして考えられるが、地域行事やボランティア等の主体的な参加を促していきたい。また、学校からも様々な行事や取り組みなどの情報提供を積極的に行っていきたい。
カ	業務改善の推進による持続可能な学校運営体制の構築	各分掌で業務の見える化による改善に取り組む職員100% ICT活用により「スクールDX」を推進する教職員が100%	ICTを活用し業務の精選と改善を行った教職員100%	A	ICTを活用し、分掌内の業務の見える化することで業務の精選と改善を行うことができた。 来年度はC-Learningの強みを活かしつつ、活用場面に応じて他のアプリの強みを活用することを全体で進める必要がある。 非常勤講師の先生方への対応を組織的に行う。
キ	教育予算の適正で効果的な執行による、学習環境の改善と充実	教育用備品等への整備・充実	限りある予算の中で、適切な予算執行を行い、備品等の整備充実を図った。	A	学校経営予算等が毎年減少している中、事業内容を見直すなど、効果的な執行に努めていく。
		要改善箇所の低減	職員安全衛生委員会等での課題に対し、随時、迅速に対応することができた。	A	施設が著しく老朽化しているため、生徒の安全・安心を守るという使命に立ち返り、「最悪の事態」を想定しながら日々取り組んでいく必要がある。